

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中で、地域福祉へ貢献し、支え合う仲間である事を掲げている。当事業所を地域の中に違和感なく溶け込ませ、地域での生活が広がって行くように取り組んでいます。	○	職員全員による意見を出し合い、地域を意識した自分たち独自の理念の作成を行ないました。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフルームに掲示して、職員がいつも意識し理念の基に行動するようにしています。スタッフ会議において全員で理念の共有を図り、新しい職員には理念を理解してもらい日々のケアに反映させています。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念はグループ玄関の目に入りやすいところに掲示しています。また運営会議においては地域住民の方々にも理解を深めてもらうような内容を心がけています。地域にもふたば通信を発行し事業所の取り組みを理解してもらっている。	○	地域の方々との関係性をもっと密着して行き理解を深めてもらいます。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所へ散歩に出かけるときなどは、地域の方と必ず挨拶しています。ゲートボールの試合が行なわれているときは見学にゆき、しりあいのかたがと挨拶や話がはずみます。	○	気軽に立ち寄ってもらうために、ゲートボール参加や行事招待で徐々に来ていただくよう計画しています。地域の方の参加行事をもっと増やして行こうと考えています。
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供会行事や町主体の地域行事などに参加や見学で出かけています。グループホームでの行事等に招待し参加してもらっています。近所のお宮掃除を定期的に行なっています。	○	地域の高齢者や小学生との交流の機会をこれからももっとひろげていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方の集りで、介護保険利用の仕方等の質問に答え、事業所の力を地域に活かせる様にしている。特養職員と共に小郡市花火大会へのボランティア参加しています。利用者が外部へ出かける事により、GHの活動を理解して頂いています。	○	今後も併設の特養と話し合いを定期的の行い、自分たちで出来る地域貢献を検討していきます。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分たちがきずかないことを知ることで利用者援助の向上につながり、また自分たちの介護に対する意識の向上につながるため、職員間にて話し合い処遇統一をはかっています。設備面でも、内容を把握し早急に改善するようにしています。	○	外部評価・自己評価を通じて業務内容の見直す。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いにおいて、理解度は増してきているようです。意見がでている事は出来るだけ実行し、次回の次回の推進会議において報告しています。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問のあるときや理解しにくいときには相談してアドバイスを受けています。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員研修や外部での研修で学んだ職員は、必ず他の職員に伝え、権利擁護に関する知識を理解し活かせるようにしているが、現在利用者はいません。わからないことは、いつでも話し合うようにしています。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する内部研修を行うとともに、職員がお互いに注意できるような環境づくりに努めています。職場で委員会を作り、ポスターを掲示したり、アンケートを行ったりして虐待防止に努めています。	○	虐待防止の学習機会を設け、知識と意識を高める。職員全員で行なっている委員会活動を活用する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項の説明を行った後、利用者や家族からの希望や質問に対し十分話し合い、安心してもらえるよう援助しています。退所時も利用者や家族に不安が無いように何度も話し合いを行い援助しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で話を聞き、改善しています。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度金銭管理報告と共にふたば通信を発行して報告しています。利用者の日常生活・行事報告・職員異動・利用者入居等の季節や時候に応じた内容で、家族の方からも楽しみにしているというお言葉が聞かれます。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において意見を聞き、検討改善しています。また意見箱を設置しています。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議において、意見や提案を聞いて反映しています。職員がいつでも意見や提案がしやすいように申し送りノート活用したり話し合ったりして、全員が運営に参加していることを意識してもらっている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月の職員会議で、利用者の状態や様子の確認を話し合い病院受診や体調不良の対応が出来るよう、お互いが気持ちよく勤務交代や調整できるよう話し合っています。又職員も勤務調整に協力的でいてくれます。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフ異動は極力ない様にしておりますが、職員移動は今年度一名ありました。その他のスタッフは継続しています。新人職員には新人教育を実施し、早くなじめるようスタッフ全員でサポートを心がけています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては人権の尊重をしていますが、適正を考慮して採用されています。またここ3年ほど新人の採用は無く職員が辞めることなく勤務継続しています。	○	職員のストレスや慣れからくる士気の低下に注意しながら、より良い職場環境の構築に勤める
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員研修で人権や啓発に向けた勉強会を行っています。またスタッフ会議において理念の考えを理解するよう話し合っています。	○	日常の中で自然に人権を尊重できるように話し合うことや、職員研修での勉強会の継続を行ないます
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画において研修を行っています。また外部研修も可能な限り参加しています。外部研修は報告することで、他の職員も共有できるようにしている。	○	職員研修での勉強会の継続を行ないます
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護関係者や医療関係者との小郡三井地区介護保険研究会に参加しています。又同法人内における勉強会を月1回実施しています。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員旅行や忘年会、カラオケや食事会を行なっている。休みの希望は可能な限り勤務表に取り入れています。また、何でも話せる雰囲気づくりに努めています。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	必要な場面においてアドバイスし、職員のレベルにあった研修を受けられるようにしています。意欲低下に繋がらないよう職員の努力や実績を評価している。	○	評価システムをより分かりやすいように具体化して、気持ちよく働きやすい環境を作る。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴と受容を基本とし、話をよく聞き安心して生活できるように努めています。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安や希望をよく聞くように話し合いを行っています。利用者の気持ちを代弁し、職員から相談することもあります。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望をケアプランに反映し、必要なサービスを見極め安心される援助を行っています。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に事前聞き取りを行い、安心して入居されるように努めています。またスタッフ間で受け入れの話し合いを行い、利用者も職員も戸惑わないようにしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に料理の準備をしたり、同じものを食べたりして家族同様に生活しています。洗濯物をたたんだり、自分の出来る事をしていただくことで喜びを感じてもらい、日常の中でもよく話をし、共感しながら生活しています。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにおいて、職員の考え・その他のことを話し信頼関係を築き、また面会が遠のいている場合は連絡を取り、面会依頼を行うときもあります。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	落ち着いた生活をしていただけることで、自然と家族との関係性も良好になっています。面会に来られたときは必ず本人の状況を報告し、家族と共に本人を支えているということを認識してもらっています。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、ドライブで出かけたりしています。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	ほとんどの方が日中リビングで過ごされており気のあった方と同じ椅子に腰掛けられたり、一緒に同じ手伝いをされるなど孤立しないよう対応しています。職員が間に入り、いい関係性を保てるような対応をしています。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された家族の方が、相談や職員に会いにいられています。遊びに来やすい雰囲気づくりを心がけています。併設特養へ移動された方にも、時々面会に出向き会話を行なっています。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中での話から本人の希望や意向を汲み取ります。出来るだけ本人の思いを大切に、認知症で困難な場合はどうしたらよいか職員間で話し合い本人本位で考え対応しています。基本的に受容を行うようにしています。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントにより、家族から聞き取りを行ったり、本人より話してもらえるように、意識的に会話をしたりして、それをケース記録に残したり、スタッフ会議等にて話し合い職員間で共有しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタル測定の実施。また、本人が出来ることを発見するよう職員とともに色々なことを行っています。性格・生活歴・ADL・認知症の状態など総合的に把握できるよう努めています。	○	日常観察の中から本人の出来ることを探す。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態を観察し、家族の希望・職員の意見を踏まえケアプランの作成を行っています。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月ごとにケアプランの評価を行い、本人の状態・希望・環境・家族の希望等を踏まえ、介護計画の作成を行っています。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日本人の状態や生活内容を記録しています。状態変化についてカンファレンス等に行い介護計画変更を行なっています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族・本人の要望を聞き柔軟に支援しています。	○	外泊・外出支援を気軽に楽しんでいただいています。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練での協力・ボランティアの受け入れ等において支援しています。	○	消防訓練の・ビューティボランティアの継続。今後美容ボランティアと音楽関係のボランティアを受け入れる予定。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	町のサービスを受けられるように、家族にそのようなサービスがあることを知らせ、利用者や家族の負担を軽減しています。	○	他事業所との連携や地域のケアマネージャーと連携して生活支援に結び付けたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとのケアマネとの情報交換は定期的におこなわれています。介護予防の対象者は現在利用されていません。	○	地域包括センターのケアマネージャーの推進会議への参加要請を行い、地域との協働を行って行きたいと思います。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を聞き、在宅からのかかりつけ医師にて医療管理していただいています。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の医師と相談し認知職の進行防止・健康の相談等を行いより良い対応を行うようにしています。	○	精神科医との連携・相談を行なう。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携担当の看護師が、定期的に利用者に直接接し、健康状態の把握をしてもらっている。また職員が異常・小さな変化を感じたときはすぐに相談し、場合によっては状態観察してもらっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	特別な場合を除き、連携病院に入院されているため、こまめに面会に行き、病院の医師・看護師・ソーシャルワーカーなどと情報交換しています。	○	ケースがあるときだけではなく、日常より交流を深めるようにする



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会において、家族の関心の高いテーマなので、ターミナルケアについて話し合いを行っています。	○	家族の思いを聞き、終末期に向けてきちんと対応してゆく。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在ケースはありませんが、家族からターミナルを望まれるときはその受け入れの為の連絡体制や援助体制を検討しています。	○	ターミナルケアの勉強会を行い、必要な方には援助体制を整えたり相談しながら行ないます。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や他施設への移住があるときは、事前に情報提供を行い、面会等にも赴いています。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	相手の立場に立ち声かけを行っています。また入浴や排泄に関しても配慮して、本人様より職員のほうが注意しています。個人情報の記録は鍵つき書庫に保管しています。	○	馴れ合いにならないよう、職員の声かけには、十分注意して行きます。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	納得しないと動かない方には、本人が行きたくなる様な声かけを行っています	○	職員が決め付けず利用者の話を良く聞き、選択してもらう。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人異なるので、職員が察知して安心して生活できるように援助しています。	○	本人の希望に沿ったペースで過ごしていただく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服の買い物が出来る方には、職員が付き添い一緒に買い物されています。また、白髪染めの希望の方には職員が援助しています。散髪は外部委託で美容師に来てもらっています。入浴の際能力のある方には、自分で何をきるか選択してもらっています。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の出来る方には、その方の能力にあった手伝いをいただいています。手伝いを日課とされているかたもおられます。配膳・盛り付け・お膳や茶碗拭きを手伝っていただいています。	○	能力に応じたお手伝い。納得して行なえるよう声掛けには注意しています。「ありがとうございます。」と感謝の言葉を必ずかけています。
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつなどは「何がいいか」と聞きながら好みのものを提供できています。	○	食べ物は楽しみの一つなので、今後も利用者に尋ね、好みを反映していきます。
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を参考にして、定期的な排泄に加えて、失禁防止に努めています。また、排泄困難な方には排便コントロールや導尿の必要がある方に導尿介助を行っています。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴の機会を設け、声掛けをしながら入浴援助をしています。入浴拒否をされる方には納得して入浴されるように援助しています。入浴されると「気持ち良かった」という声が聞かれます。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を活発にして、夜間より良い睡眠が取れるように配慮しています。	○	その時々利用者の状態変化に合わせてゆけるよう常に観察と新しい感覚を持ち話し合うことを継続する

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・食事の準備・買い物の手伝い。また、季節の花の購入から植え付けまでを職員と協力して行うことで満足と喜びを感じてもらっています。	○	利用者お一人お一人の個性を尊重してゆくことを忘れないようにする
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たれている方は限られていますが、買い物の際は自分で出していただき、買い物をされています。職員が見守ります。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ近所へ散歩に出かけたり、買い物やドライブに出かけています。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎週日曜日はドライブを計画していて、季節を感じられるようなところへ出かけています。外出を特別なものと受け止めず、生活の中に取り組みめるように働きかけています。	○	個別希望を今以上に応えられるようにする。
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時には、職員が援助を行い家族などと話をさせていただいています。面会の間隔があいたときなども、差しさわりの無いような形で、利用者本人様と家族と電話で交流していただいています。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	お茶・いす等をすばやく用意して落ち着いて話せるようにしています。定期的なおいでになる、ご家族の方々もいらっしゃいます。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度のスタッフ会議や職員全体研修において、身体拘束防止について取り組んでいます。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けていません。そのため安全確保のために玄関や通用口にはピンポンマットやアラームを使用しています。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒の恐れのある方や、注意しなければならない利用者においては、職員が必ず見守りを行い、職員が場所を離れるときは、職員同士の声掛けによりお互いの所在確認を行っています。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等の危険物には鍵を使用し利用者の危険物取り扱いには十分に注意しております。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し事故防止に努めています。また消防署において救急救命やAEDの講習を全員が受けています。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署において救急救命やAEDの講習を職員全員が受けています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	特養との合同で年4回定期的に避難訓練を行っています。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	病気の現状・本人の行動状態等を細かく家族に説明してリスクについても今の状況を理解していただくようにしています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや日常の様子観察において常に本人の状態把握していますが、体調変化時には至急看護師に報告し、必要であれば担当医師に連絡し支持を仰いだり、受診したりしています		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに閉じていると共に、薬袋の中にも処方箋を入れ職員が把握。また、内服変更時には口頭での報告に加え、連絡ノートに記入し情報の共有を図っています。薬袋の名前と本人の名前を確認し、確実に服薬されるまで側で見守っています。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を参考にして、定期的な排泄がなされるように援助しています。食事摂取量からも推測しています。内服ばかりでなくバナナや牛乳を活用しています。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来る方は見守りで対応し、口腔ケアの必要な方には程度にあわせた援助方法にて支援しています。ケアプランに取り込んでいる方もおられます。職員全員が口腔ケアの大切さを認識しています。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量のチェックを行っています。利用者の嚥下力・咀嚼力に合わせた食事形態を提供し、楽しく同じものを美味しく食べてもらうよう心がけています。体重測定においても、健康管理把握しています。食事メニューにおいては栄養士が確認しています。		
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿って、手洗い・うがいの実施。また職員全体研修において感染症の予防に努めています。インフルエンザ予防接種を利用者・職員とも全員接種しています。		
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔な器具を使用し、また食材についても良く洗い、また新鮮な状況で使用するように、買い物は毎日または一日おきに出かけています。賞味期限切れの出ないように注意しています。まな板等は定期的に消毒しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特養と併設のためわかりにくいいため、建物の外壁に「ふたば」と文字を掲げています。	○	わかりやすい入り口にするため工夫が必要である。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日が入るため、遮光カーテンを使用しまぶし過ぎないように配慮しています。リビングや食堂には季節の花を飾って季節を感じてもらおうようにしています。大きなカレンダーにて、今日の日を毎日確認されている方もおられます。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングを活用し、利用者がそれぞれお気に入りの場所にて過ごされています。廊下の椅子では、歩行訓練の疲れたとき座ったり、日向ぼっこをされています。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用されているたんすや引き出し等、本人のなじみの物や、お気に入りの物をおかれています。		
86	—	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開け換気には注意しています。また気候気温に合わせた温度調節を行い、温度計・湿度計を参考にして暑すぎたり寒すぎたりしないように利用者に尋ねながら快適な温度・湿度が保てるように調節しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室にはバーを設置し安全安楽に行動できるようになっています。歩行困難なかたも多く利用されている為、障害物のないようにしています。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には名前を掲げ、トイレには「トイレ」と記入して誰にでも分かりやすくしています。そして、その方々に応じた声掛け・誘導等により自立を促しています。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺を散歩コースにしています。ベランダには、日光浴用ベンチを置き、プランターに季節の草花を植えて、目で楽しんだり成長を楽しんだりしています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目</b>				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様との信頼関係を大切に、わがままの言える生活を援助していくと共に、家族との信頼関係も重要視し家族と職員で利用者の生活を支えていることを強く感じています。利用者様の健康管理のため毎日バイタル測定して、小さな気付きを大切にしています。職員には認知症の理解が出来るよう月1回研修会実施、介護に関する委員会を設け各分野での知識向上に努めています。特養との併設である為協力体制は万全ですが、特養とグループの違いがまだ地域の方に理解されていない部分がありますので、夏まつりやクリスマス会には近所の方々や小学生に招待状を送り利用者にとぎやかに過ごせる時間がもてるようになりました。ビューティボランティアには定期的来て頂いていますが、今後美容ボランティアの依頼もあり、少しずつですが地域の輪が広がっているようです。ここで生活していただいている利用者様には安心して暮らしてゆける生活の場所になっていると感じています。これからも、地域福祉の向上を目指し安心して自分らしく生活できるホームであり、そして地域貢献を行ないながら、地域の資源をもっと活用して地域住民の一人として生活をしていただけるよう支援してゆきます。